

【教育長賞】「給食」

桜町小学校 田中 翔

僕は、給食が好きだ。新学期、どの委員会にするか決めるときに、放送委員になると給食のおかわりができなくなるという理由で放送委員になるか迷ったくらいだ。

僕は去年の休校を機に改めて給食の大切さに気付いた。突然の休校で給食を食べることができなくなった。夏休みなどで長期間、給食が食べられないことはあっても、三ヶ月という期間にわたり、給食を食べることができなかつたことはまずなかつたのだ。

それと同時に、給食の時間に皆で話すということもなくなった。コロナウイルス感染症が流行する前は、皆で机をくつつけ、楽しい話をしながら給食を食べていた。コロナウイルス感染症の流行により、皆で話しながら食べるということは、あたりまえだが恵まれていたということに気付いた。

去年の五月下旬から、学校が再開し、給食も食べられるようになった。

コロナウイルスの影響で困っている、生産者の人々を助けるために県が買い取った、うなぎや牛肉、鶏肉などが給食に出るようになった。

このことから、給食は、栄養バランス、地域の人のこと、給食を食べる僕達、子供のことを考えてつくられているんだなと感動した。

しかも、給食は一部を税金で補われている。四月

に、社会で税金の使われ方という勉強をした。ということ、給食は僕達子供に無くてはならないものということだ。

だから、給食は残さず食べるべきだ。僕はそう思う。沢山の人の苦労があるからこそ、毎日、おいしい給食が食べられるのだ。

僕が放送委員の仕事から戻ってくると、沢山の給食が残っていることがある。僕のクラスは牛乳を片付けるときは、食缶の中で牛乳を片付けている。なので、食缶の中身が残っていると、牛乳と混ざってしまい、飲めなくなってしまうのだ。

その度にもつたいたいな、と思う。給食が残るところは仕方のないことだが、せつかくの給食なのだから、残らないようにすればいいのにな、と思う。

材料を作る生産者の皆さん、調理場の皆さん、などの給食に関係している人々全員に感謝すること。給食が食べられることは恵まれていることだと思いつけること。

この二つのことを考えながら、給食を食べれば、給食は残らず、気持ち良く、給食を食べることができるとは思えないかと、僕は思う。